

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	石川 律 (いしかわ りつ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2022 年 10 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第 48 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	石川律
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	過剰適応者に対する認知行動論的特徴に関する記述的検討
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p><b>【目的】</b> 本研究では、過剰適応者における状態像の認知行動論的特徴に関して記述的に検討することを目的とした。</p> <p><b>【方法】</b> 研究協力者 4 年制私立大学大学生 149 名を対象とした。 測度 デモグラフィック項目 (年齢, 性別), 過剰適応傾向 (成人用過剰適応尺度; 水澤, 2014), ソーシャルスキル (成人用ソーシャルスキル尺度; 相川他, 2005), 認知の歪み (不合理な信念測定尺度短縮版; 森他, 1994), 随伴性知覚 (EROS 日本語版; 国里, 2011), 行動活性化 (BADS-SF 日本語版; 山本他, 2015), 抑うつ (CES-D; 島他, 1985), ストレス反応 (SRS-18; 鈴木他, 1997) 倫理的配慮 本研究は早稲田大学の「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」の承認を得て実施された (承認番号: 2021-355)。</p> <p><b>【結果・考察】</b> 過剰適応者における認知行動論的特徴について分類するため、過剰適応の程度が平均値より高い者を抽出し、階層的クラスタ分析を実施した。その結果、デンドログラムの形状から解釈可能な 3 つのクラスタを抽出した。3 つのクラスタの特徴を比較するため、それぞれの変数を標準化し、一元配置分散分析を行った。その結果、第 1 クラスタは他のクラスタと比較して、ソーシャルスキルと行動活性化の程度が有意に低く、第 3 クラスタと比較して認知の歪みの程度が高いことが示された。また、第 2 クラスタは他のクラスタと比較して、行動活性化の程度が有意に高いことが示された。加えて、各クラスタ間における抑うつおよびストレス反応の程度について検討した。その結果、第 1 クラスタは第 2 クラスタと比較して抑うつの程度が高く、第 3 クラスタと比較してストレス反応の程度が高いことが示された。 過剰適応者の中にはソーシャルスキルの獲得が乏しい者や、自分さえ我慢すればいいといった認知の歪みを有している者などの複数の状態像がみられることが示唆された。したがって、過剰適応者に対する支援においては、その認知行動論的特徴を考慮したサブタイプに応じた介入が過剰適応状態の変容や抑うつの低減に有効となる可能性があると考えられる。</p>	

※無断転載禁止